

子どもと地域のウェルビーイングの実現を目指す総合的な学習の時間

～「うえだみどり大根」を育て、広めた2年間の挑戦～

上田市立城下小学校4学年会

I 現代の学校教育に求められていること

第4次長野県教育振興基本計画 「『個人と社会のウェルビーイングの実現』に向け、自ら課題を見出し、その解決を目指して**仲間や多様な他者と協働しながら新たな価値を創造する力の育成**が一層重要である。」
城下小学校令和7年度重点 「自分からつなげるあいさつ・つなげる学び・つなげるところ ～ねっちゅう、ぼっとう、ひたむきに取り組む城下っ子」 ⇒ **仲間や地域とつながりながら夢中になって学ぶ子どもの育成**

II 単元を通して大事にしたこと

- ①子どもたちの「問い」と「ねがい」をもとに単元を柔軟に構成する
・体験や地域とのかかわりを通して生まれた「問い」と「ねがい」を起点に、単元構成や具体的な活動内容に反映する
- ②子どもたちの「ねがい」を地域の方と共有し、協働を通して実現する
・子どもたちが自らの「ねがい」を地域の方に明らかにし、対話を重ね、共に活動を創り上げながらその実現を果たすプロセス＝「協働」
- ③「本物」から学び、「本物」を創り出す活動を行う
・生産者、料理研究家、飲食店店主など、専門家の知識や視点に触れながら学ぶ
・思い通りにはいかない現実と向き合いながら試行錯誤し、成果を社会へ届ける



【うえだみどり大根】上田市の地大根。水分が少なく糖度が高いため多様な調理法をもつ。生産量が少なく、市内の流通も限定的である。

III 単元「うえだみどり大根PR大作戦」（令和6～7年度）の概要

探究① うえだみどり大根はどのような大根なのだろうか（R6）



播種機「ごんべえ」での播種 学校の畑の畝作りと播種

<子どもたちの問い>
・どうして緑色の大根になるの？
・どうやって食べる？
・甘って本当かな。
・生産者の人たちは、なんでうえだみどり大根の仕事をしているんだろう？



うえだみどり大根学習会

<生産者のMさん>20年前から続けている。大根をもっと地域の人に知ってほしい。

<Cさんの感想> 20年前からやっていますすごいと思いました。でもみんなが知らないなんてかわいそうだし、なんかおかしいなと思いました。地域の人たちにもっと知らせたいです。でも、どうやって知らせればいい？

探究② うえだみどり大根をたくさんの人に知ってもらうにはどうしたらよいのだろうか（R6）



うえだみどり大根サミット

<子どもたちのねがい>
・大根レシピのチラシを作って配りたい
・僕たちが作ったCMをテレビで流してほしい
・『大収穫祭』でくじびきのイベントをしたい
・大根のオリジナルキャラを作りたい 等



大収穫祭のチラシと「大根くじ」の様子



クレープ開発・販売

<Gさんの感想>
クレープが本当にできて、不思議な気持ちです。うえだみどり大根と合うか心配だったけど、とてもおいしくておどろきました。何より開発することができてうれしかったです。

探究③④ うえだみどり大根の新しい食べ方を考え、大根や上田市のよさをたくさんの人に知ってもらおう（R7）



市内飲食店・商店への依頼と取材



メニューの共同開発と試作



各店舗でのうえだみどり大根料理とスイーツの販売



上田駅でのクレープ販売

<Lさんの感想> 焼き鳥のお店の方が元気に接してくれてうれしかったです。お店の方がぼくたちのアイデアを聞いてくれたし、それを「いいね！」と言ってくれたのが、すごくうれしかったです。

<Sさんの感想> ぼくたちが考えたピザはとてもおいしかったです。「このお店は最高だね。」と家族と一緒に話して、楽しみながら食べました。ほかのお客さんも頼んでいて嬉しかったです。
<Tさんの感想> 「うえだみどり大根のツナサンド」は大根が細かく刻んであって、食感も良くとてもおいしかったです。お店にコラボのことが書かれている看板があったことも嬉しかったです。

IV 本実践で見られた「子どもたちと地域のウェルビーイング」

<そば店の女将さん> みどり大根カレーと一緒に作ったこと、みんなに話してるよ！仲間に入れてもらって本当楽しかった！



<今もそば店に通うDさん> 土曜日にそば屋さんに行きました。行くと、おかみさんがだきしめてくれました。

<さつまいも店の店主さん> ポタージュは、通常メニューより売れて瓢箪から駒ですよ。本当に良いものを教えてもらいました。当店のレベルアップにも繋がった、希少な経験でした。皆さんに喜んで頂いたこと、お客様に驚きを持って頂いたこと、大満足です！

- ①子どもたち・・・地域の役に立てた実感(自己有用感) / 主体的に社会に働きかける姿 / 地域と関わりながら学ぶ喜び / 地域への愛着の高まり
- ②保護者の方・・・地域への関心・親しみ / 親子の対話と、子どもの成長への喜び / 地域とのつながりの実感
- ③地域の方々・・・地域素材の新たな価値の発見 / 仕事の充実感と手応え / 子どもとの協働による、地域とのつながりと関係の深化

子どもと地域が「教える／教わる」の関係を越え、互いのねがいを共有し、共に価値を創り出していく関係が築かれた時、子どもと地域のウェルビーイングは高まっていくと考えられる。教師自身も、常に子どもたちの「伴走者」として共に考え、共に試行錯誤し続けていきたい。